

令和3年度第2回 岐阜県人権懇話会 会議要旨

○日時：令和4年3月24日（木）13：30～15：00

○会場：岐阜県水産会館 大会議室

- 議題：（1）人権に関する県民意識調査結果について
（2）「岐阜県人権施策推進指針(第四次改定)」骨子(案)について
（3）岐阜県の人権施策の取組状況について

（委員）

部落差別、同和問題は、人類普遍の権利、自由と平等に関わる問題で、その早急な解決が国の責務であり、国民的課題という認識が示されて、50年以上が経った。しかし、いつ何時、顔を出すのかわからないのが差別・偏見である。その時に一番肝心なのは、それはおかしいよと穏やかに丁寧に語りかける人々の輪である。

県の人権施策推進課から届いた「人権だより88号」に載っていた養老町立高田中学校3年生の男子生徒、高山市立東山中学校3年の女子生徒の二人の意見に感動した。人権を「身近なところから深く感じ、広く考える」という見本そのもので、素晴らしい意見だった。

（委員）

コロナ禍でこの2年間、地域の交流や人との触れ合いがないために、電話相談や人権相談、特に高齢者と女性問題についての電話相談の窓口が大変らしい。一人当たり時間がかかり、対応できる人を窓口に配置をしておく必要がある。地域で解決できる悩みでさえ、自分の意見だけを言う高齢者も多らしく、窓口対応の人材の確保をきちんとやっていただくことが、地域社会のいろいろな問題に対する問題意識を解決する一つの道筋ではないかと思う。

（委員）

人権に関する県民意識調査の結果で、事務局より「現在関心をもっている人権問題」を概要の資料で説明いただいたが、調査報告書には年代別の結果も載っている。今後、施策を推進するにあたり、例えば子どもに関する人権は、インターネットとも複合的に関係してくるので、調査結果の年代別の割合も参考にしながら、それぞれの分野についてどの年代を重点的に押さえていけばいいのかを考慮するとより効果的になると思う。

（委員）

「部落差別（同和問題）や同和地区をはじめて知ったきっかけ」の調査結果を見ると、家庭が多く、家庭との連携が大事と思っている。学校では部落差別（同和問題）は、学習指導要領では中学校に初めて出てくる。小学校では歴史的なことは勉強するが、差別そのものを扱うということはない。

「部落差別（同和問題）の認知度」では、「聞いたことがある」が77.4%、「聞いたことがない」が20.7%もあるということは、学校の授業では必ず触れるようにしているため、少

し残念に思う。

「子どもの人権を尊重するために必要なこと」で、「家庭・学校・地域の連帯意識を高め、3者が連携して活動に取り組む」が高く、学校に対する期待が高いことを認識しており、いじめについてもだが、学校の責任を重く感じている。この頃は、学校だけでなく、学校・家庭・地域が連携して、一体となって取り組んでいかないと教育が大きな進歩を遂げることが難しいと思っている。岐阜県人権教育協議会としても、学校・家庭・地域の連携を大切に取り組んで、ご期待に添うようにがんばっていきたいと思う。

(委員)

子どもの障害者の会や全国の団体では、当事者抜きで条例などの物事を決めないでくださいということをお願いしている。最近、校則を見直そうという動きがあるが、校則は本人たち抜きで大人が決め、押しつけているもので、そういうものに何で?という疑問が沸いてくるのは当然で、いい傾向だと思っている。

人権教育では、家庭教育が一番だと思っているが、今は三世代世帯より二世帯世帯が多いことから、学校教育を充実していただきたい。差別・偏見は、知らない、わからないことから生まれてくると思っている。

障害者差別解消法を知らないという調査結果は、当然だと思う。私たちの法律であるが、国で決められたということもあり、国や地方公共団体の責務がうたわれているが、当事者の役割がうたわれていないのはおかしい。当事者である障害者の人たちも法律を知らない人がほとんどだと思う。共生社会は健常者だけの社会ではなく、お互いに役割があり、そうでなければ共生社会は生まれてこないと思う。

いろいろな意見があると思うが、障害の“害”という字は、平仮名ではなくていいと思っている。点訳、音訳では一緒に、これは晴眼者が勝手につけたものである。

(委員)

新型コロナで、女性の問題が一番よく問題になったと思う。職場での人権で長時間労働や非正規雇用、職場内のパワハラが問題であるとする割合が高くなっているが、これは女性の人権などの各分野にも関わる。コロナで女性の自殺者が多いなどいろいろな問題がでており、女性の自殺者が岐阜県でも多かったと思うが、特にコロナで言えば“生存権”に関わる問題だと思う。

県が作成したパンフレット「家庭ではぐくむ生き合う力」は非常によくできている。地域では人権を考える研修の機会が少ないので、自治会に回覧などで回したら、地域の人たちへの啓発になるのではないかと思う。

(委員)

子育て中のお母さん、働くお母さんから最近、コロナで保育園が休園になってしまい、親が子どもを見ていなければならないということで、リモートワークできる仕事ならいいが、そうではない仕事の方は結局、仕事を休まなければならない、職場で同僚への申し訳なさにつながり悩んでいるという話を聞いたことがある。男女関係なく子どもを見る家庭もあるが、

そうはいかない家庭もある。

子どもの人権に関して、児童相談所虐待対応ダイヤル189番の周知のためのカードが配られたと報告があったが、子どもは親から虐待を受けていても、やはり親が好きで他に相談ができないということを聞いたことがある。そうすると、そのダイヤルはわかっているが、電話をかける一歩に手を差し伸べることが大事なのではないかと思うので、今後そういった取組みを考えていただけるといいと思う。

(委員)

SOSを出せばいいが、それを出せないということである。

(委員)

人権侵害を受けた場合、「民生委員等に相談をする」というのが5.6%と少なかったこと、児童虐待を発見したときの対応で、「民生委員・児童委員に知らせる」は12.2%でこれぐらいかと思うが、「どこ（誰）に知らせたらいいのかわからない」人が約2割いることにショックを受けた。

民生委員の基本は、家を訪ねてよく話を聞き、ちょっとしたことに気づき、傾聴し、行政につなぎ、また見守ることであるが、コロナの中で対面して話をするのが思うようにできなかったことが、この結果につながっているのかなと思った。井戸端会議の中でいろいろな情報が入ってくるが、皆さんが外へ出てもらわない限り何も見えないことがジレンマで、これがいつまで続くのかと思いつつも、でも何かやらなければいけないから、できることをやりたい。

(委員)

同和問題やこうした人権問題は、デリケートな部分も多いので、言葉遣いひとつについても、相手の気持ちに沿っていけたらと思う。コロナ禍で、調査結果に多少影響があった感じも受けるが、調査結果を業務の参考にしていきたいと思う。

(委員)

「人権だより」に作文が掲載された中学生2名の意見は本当に素晴らしいと思い、職員教育に使ってほしいと職員に渡した。県から、商工会議所などの団体に、このような記事を会社で使ってもらったり、社内報に記事を入れてもらったりすると、ひとつ読んだだけでもいろいろな問題を含んでいるので、読んで心の中にジーンとくれば、いろいろなことに気に留めるようになると思うので、そういうこともやっていただきたいと思う。

4年間の取組みや第4次改定の指針の骨子案にたくさんの取組みがあるが、全部を浅く広くやるのではなく、岐阜県としてこれを今年は重点的に力を入れようと軽重を付けた方が、成果が上がるのではないかと思う。

(委員)

人権問題は、時代と共に大きく変化をしていくということで、常にその変化を捉えていか

ないとうまくいかない。今のSNSの問題も然りで、最近ではウクライナの戦争も人権の非常に大きな問題だろうと考えている。

地域でも、話に出ているようにコロナによる差別がないわけではないと思う。自治会では最近、非加入者あるいは脱退して非加入になる方も増えており、大変苦慮している。そういう問題も差別につながりやすい問題を抱えているので、今後、どのように捉えていけばいいかを見ているが、解決できそうでできない状態を抱えており、地域でお互いに助け合う制度を導入するような形にしていくと、細かな問題が解決しやすいと思う。人権問題は、絶対になくなる問題でなく、時代を捉えた解決策をいつも考えていく必要があると思うので、古い問題をいつまでも捉えているよりも、新たな問題を捉えていくことが大切ではないかと思う。

(委員)

“人間と性”教育文化センターでは、レインボー岐阜というLGBTQの人たちのしゃべり場を2カ月に1回開催している。コロナで休みになってしまったこともあったが、集まっていたら、いろいろな方とおしゃべりし、交流している。

女性・男性だけではない時代で、学校教育は本当に大事な役割をしている。学校で表立って人権ということを教えるということではなく、小学校、中学校から高校まで、いろいろな教育の場面、活動の中で、人はそれぞれ、大切なひとりの人間だよという気持ちをみんなが育てていくようなことを学校でできたらいいのではないかと思う。

昨日の中日新聞に「女性6割、ニューヨーク市議」という記事があったが、もっと多くの女性がいろいろなところで活躍することによって、今までできなかったことがスムーズにいくような世の中になるといいと思う。

(委員)

岐阜県の中学3年生の二人の文章を読んで、私は体が震えた。まさに私が追い求めている、「身近なところから深く感じ、広く考える」、「自分がどうであったか、どうであるか、どうであろうとしているか」ということを語っている。県民の皆さんが「いのち・生き合う」ことを実感できるような岐阜県であってほしいということが私の願いである。